

令和5年度

和歌山県ボランティアフォーラム

～集まれボランティア！広がれスマイル！つながれハッピー！～

報 告 書

和歌山県ボランティア連絡協議会

令和5年度 和歌山県ボランティアフォーラム 報告

1. 日時:令和6年1月15日(月)13:30~15:30
2. 開催方法:会場にて対面及びオンライン併用
3. 活動報告団体:3団体
 - ・下神野地区自主防災組織様
 - ・日本防災士会和歌山県支部様
 - ・NPO 法人ハンドインハンド様
4. 参加者:44名(会場35名、オンライン9名)
5. 司会者:内海 敏雄氏(わかやま楽落会、和歌山市語り部クラブ 所属)
7. 内容: 開会 佐本会長挨拶

①活動報告(3団体)

(1)下神野地区自主防災組織 会長 松本 守信氏

2012年 中学校を会場として防災訓練を実施。

中学生が保育園児を避難所へ誘導する訓練を実施。

2013年 大雨警報発令のため中止

2014年 中学生が炊き出しを実演、消防署による AED 講習
保育園児に防災紙芝居

2015年 起震車体験、防災グッズ作り、煙体験

2016年 防災紙芝居、大塚製薬が非常食 PR

2017年 駐在さんが住民の方に広報、役場の防災用品展示

・防災訓練は、保育所→小学校→中学校と継続して参加できれば効果は大きい。

・この地域では、豪雨による河川増水が一番に想定されるが、中学校は川に近い低い位置にあり、自分が今いる場所より低い位置に避難するのはおかしいと指摘されていた。

2020年 コロナ禍により中止

・災害は、コロナ禍など関係なく襲ってくるという危機感のもと・・・

2021年 中学校・小学校の同時進行で「防災の日」を実施

小学校では、社協ボランティアによる簡易トイレづくり(低学年)、役場の方指導のもと、津波避難ゲーム(高学年)、また、社協を通して摂南大学生による防災クイズ(オンライン)を実施。

中学校では、防災訓練を同時進行。受付設置、和歌山大学 秋山先生による講演(地域住民対象)

2022年 中学校・小学校の同時進行で「防災の日」を実施

小学校では、社協ボランティアによる簡易トイレづくり。中学校では、従来からの防災訓練を実施。野尻技監より「災害としてのコロナ」講演

2023年 豪雨災害発生

線状降水帯による豪雨に襲われました。小学校に避難者が来られ、学校の電子黒板をお借りしてネットニュースで情報収集。

・この経験を踏まえて、防災訓練の会場を小学校に変更。

2023年8月 はじめて小学校で防災訓練。過去最多の参加者。

中学生が小学校に移動して実施。中学生による防災クイズ。役場の方から小学生・地域住民の方に今回の豪雨災害について解説いただいた。低学年には社協ボランティアによる簡易トイレづくり。

・継続して行うことが大切。そのおかげで、豪雨災害時に、自主防災組織と小学校との連携がスムーズに行えた。

(2)日本防災士会 和歌山県支部 支部長 早稲田 眞廣氏

防災士とは、「自助、共助、協働」を原則として社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を習得したことを特定非営利活動法人日本防災士機構が認証した者。

平時の活動は、防災減災への備えについての啓発活動を行い、災害発生時は被災地への支援活動を行う。

特定非営利活動法人日本防災士会 本部の会員数は、9,111名(令和元年)

和歌山県支部の会員数は、91名(令和元年)

日本防災士会和歌山県支部としての支援活動のほか、和歌山県災害ボランティアセンター協力団体として、県のボランティアバスで活動を行った。

[支援に入った地域について]

平成21年 佐用町水害、平成23年 東日本大震災、平成23年 台風12号豪雨災害(紀伊半島大水害)、平成28年 熊本地震、平成29年 九州北部豪雨災害福岡朝倉、平成30年 西日本豪雨災害(広島県、愛媛県、岡山県、和歌山県)、令和元年台風19号洪水被害(栃木市、長野市、いわき市)

ボランティア活動を行う際には、

①立場を入れ替えて考えてみる。

②被災者の心情を考える。

③被災者と同じ目線で、一緒になって日本(地域=狭い範囲→広い範囲へ)の復興を目指します。

(3)特定非営利活動法人ハンドインハンド 代表 角口 みゆき氏

「これまでの歩みと活動、そして今後の展開について」

メンバーのほとんどが女性で、母です。

有職者がほとんどであり、理事全員が有職者です。

専門職の方、シングルマザー、子どものいない方もいます。

しかし私たちの共通認識は【地域のお母さん】という認識です。

・NPO 法人立前

1997年に起こった神戸連続殺傷事件で大きな衝撃を受けたママ7人が何かできることはないかと集まったのがきっかけで2000年から活動を開始しました。

始めは、プルトップ収集を行い、車椅子寄付に協力。お母さん交流会を開催。講演会に参加し知識を得ながら、講演会を実施。

・NPO法人設立後の活動

絵本の読み語り、手作り(手作りが得意なメンバーがお母さんに通園バッグづくりなどを教える)、コーラス(施設訪問を行う)、お掃除(気軽に子どもたちと参加できる活動)、畑作業(苗植え、お芋ほり、焼き芋会など)、講演会など実施。

子どもたちとのふれあい活動として、親子でハンドベルの演奏、木のおもちゃ(積み木のようなもの)を使った遊び、お料理教室など。

「一品持ち寄り会」では、一人一品ずつ持ち寄って、みんなで食べる。お母さんたちに好評です。

子どものお弁当作りに悩んでいたお母さんは、みんなに作り方を聞き、実践するなど、お母さんの悩みを共有し解決した。

ハンドインハンドは、「お母さん力 UP」「家族力 UP」「地域教育力 UP」を軸として継続的に活動しており、様々な体験を通じて喜びを感じ、日々の子育てや生活に活かせる情報交換ができる場として子育てフェスタを企画した。

子育てフェスタでは、高校生のパフォーマンス、チェロ演奏、絵本読み語り、積み木遊び、チョークアート、折り紙などの体験ブースを準備した。

今は Instagram を開設し、情報発信を行っている。今後は、ZOOM 参加対応、思春期講座の再編を実施していく。

SNS 普及と弊害、いじめ、不登校、引きこもり、ヤングケアラー、虐待、性被害、性加害、性感染症、望まない妊娠など、子どもたちを取り巻く環境についてもこれから展開していき、「地域のおせっかいおばさん」を目指している。

②交流会

グループに分かれて、自己紹介を行ったあと、テーマに沿って話し合いました。その後、発表しました。

(1)日頃から行っている防災について

- ・日常からご近所との関係性を作る。
- ・地域の YMCA と協力。消火器の使用方法。小さい火を消すことで、大きな火をおこさない。
- ・お薬手帳などの必需品を整える。
- ・学校に行って、非常食の備えについて子どもたちに伝えている。(市社協)
- ・市民生協は、物資の協定を和歌山県と結んでいる。
- ・市民生協は、物資ストックヤードとして和歌山県災害ボランティアセンターにストックヤードを貸しているほか、防災士の資格の取得、備蓄品の準備、地域コミュニティ助成金

(市民生協のホームページにも記載)など、行っている。

- ・社協のボランティアとして、小学校でのボランティア活動(新聞紙トイレ、アルファ米の食べ方など伝え、非常食の試食など)をしている。
- ・青年会議所は、円滑な支援体制の構築、連絡体制の統一、各地青年会議所へガイドラインの配布など行っている。
- ・コミュニティが崩壊すると防災力が弱まるため、コミュニティを大切にしている。
- ・防災食(非常食)の見直しをする。
- ・避難する場所を家族で話し合っている。
- ・塩津地区(海南省)では、全世帯の携帯番号等を把握し、連絡網などを作成している。
- ・防災士会に入っているが、年齢的に被災地へ行くような活動は厳しいため、研修に参加している。防災士会としてもっと活動できればと思う。
- ・ボーイスカウトの地域活動で日頃から災害に備えた物事をやっていかないといけない旨を発信。
- ・台風、地震の時は、お風呂の湯をおいておく。
- ・懐中電灯ラジオを配り、安否確認をしている。
- ・自治体の防災の取組を伝える。

(2) ボランティア団体・活動の悩みや課題を共有、解決

- ・地区の自主防災計画について、新宮は、社協と行政で別ルール。
- ・がれきの撤去、泥出しだけでなく、被災者の心のケアとボランティアをこれから進めていくのが大切だ。
- ・継続の悩みについては、やろうとする人をどうつかまえておくか。
- ・勉強会は、楽しく時間を共有したい。
- ・あの場所、あの時間に行けば誰かがいる。時間を決めてしっかり終わって次に頑張ろうという気持ちになるよう、定例の日を決める。
- ・コミュニケーションをはかる。
- ・コミュニティをどこまでつくれるか。
- ・若い人をつかまえておく。

(3) 活動中の嬉しかった出来事、印象に残ったこと

- ・パッチワークができることが嬉しい。
- ・BBS 夜回り、若い人との交流出来ること。
- ・喜んでもらえる、みんなで協働出来ること。
- ・患者会、進路決定、自立、相談してもらうこと。

(4) 1月1日 能登半島地震があり、私たちにできることは何か

- ・1月3日支援物資準備し、運んだ。(青年会議所)
- ・心肺蘇生の勉強。
- ・マンホールトイレの準備。
- ・能登半島地震今できるのは義援金、募金。

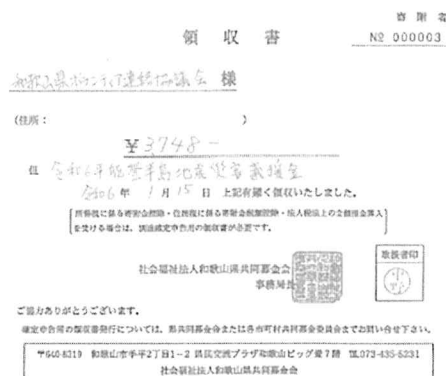
- ・金銭、被災していない人が幸せな生活をする事
- ・物も人も送れないため、現地で支援している人を支援すること。
- ・患者会ない。石川、富山、新潟 安否確認をする。(網膜色素変性症協会)
- ・障害弱者、ペット、外国人、帰省している人など、和歌山県も同じ状況になるということを考える。

8. 令和6年能登半島地震災害義援金(社会福祉法人和歌山県共同募金会)について

ボランティアフォーラム当日、会場に募金箱を設置しました。

和歌山県共同募金会を通して、令和6年能登半島地震災害義援金を寄付いたしました。

ご協力いただき、ありがとうございました。



9. アンケート集計結果

別紙をご覧ください。

今年度は、4年振りの対面そして、オンライン併用のボランティアフォーラムとなりました。活動報告は、下神野地区自主防災組織、日本防災士会和歌山県支部、NPO 法人ハンドインハンドの様々な分野での活動について貴重なお話を聞かせていただきました。交流会を通じて、普段は、別の分野で活動されている方同士、お互いの活動を知り顔の見える関係を築くことができました。また、「防災とボランティアの週間」に集い、改めて防災について学びあえる機会となりました。ご参加・ご協力いただきありがとうございました。今後も引き続き、和歌山県ボランティア連絡協議会にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

和歌山県ボランティア連絡協議会 事務局 一同